

# 新たな基本構想（国分寺市ビジョン）の検討

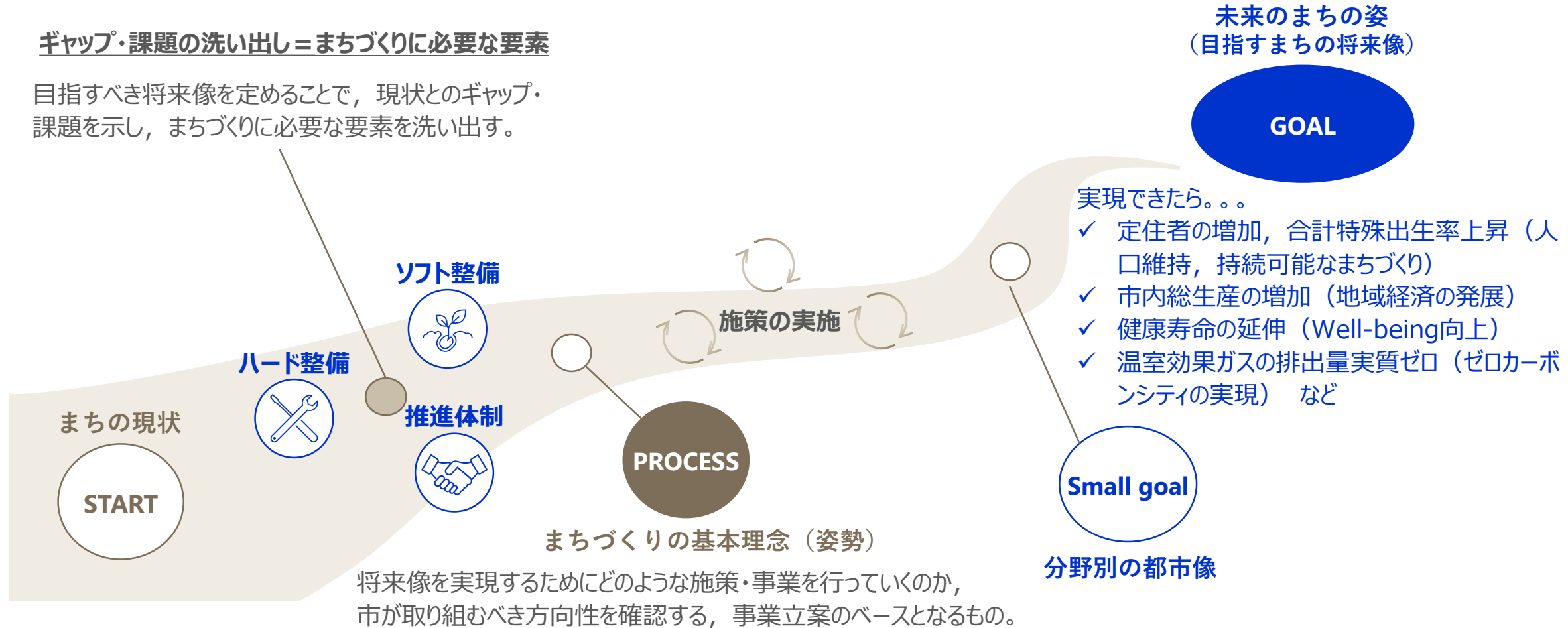
- 1 基本構想の位置付け（役割）
- 2 現在の国分寺市総合ビジョンの体系図
- 3 基本構想（ビジョン）の構成案
- 4 （参考事例）静岡市の基本構想

# 基本構想の位置付け（役割）

- 基本構想は、まちづくりにおける市の目指す将来像と将来の目標を明らかにし、これらを実現するための施策の方向性を示すもの。【＝バックキャスティング】

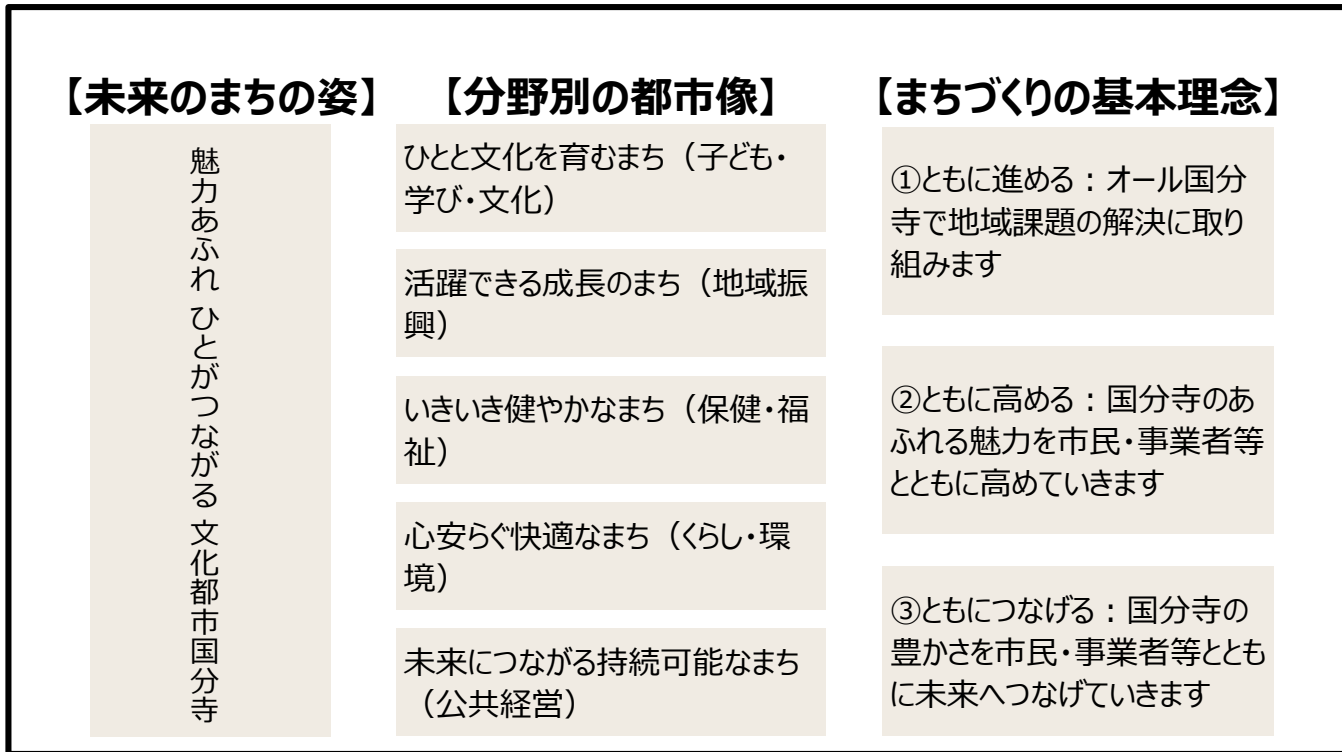
## ギャップ・課題の洗い出し＝まちづくりに必要な要素

目指すべき将来像を定めることで、現状とのギャップ・課題を示し、まちづくりに必要な要素を洗い出す。

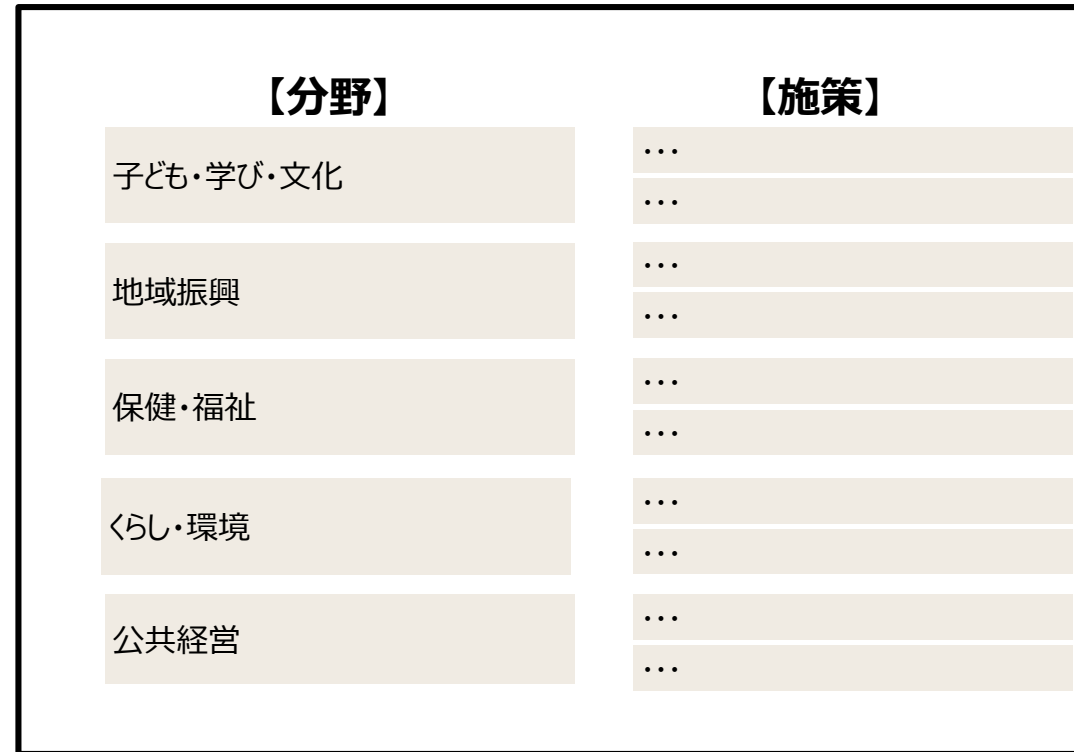


# 現在の国分寺市総合ビジョンの体系図（一部抜粋）

## 国分寺市ビジョン（基本構想）

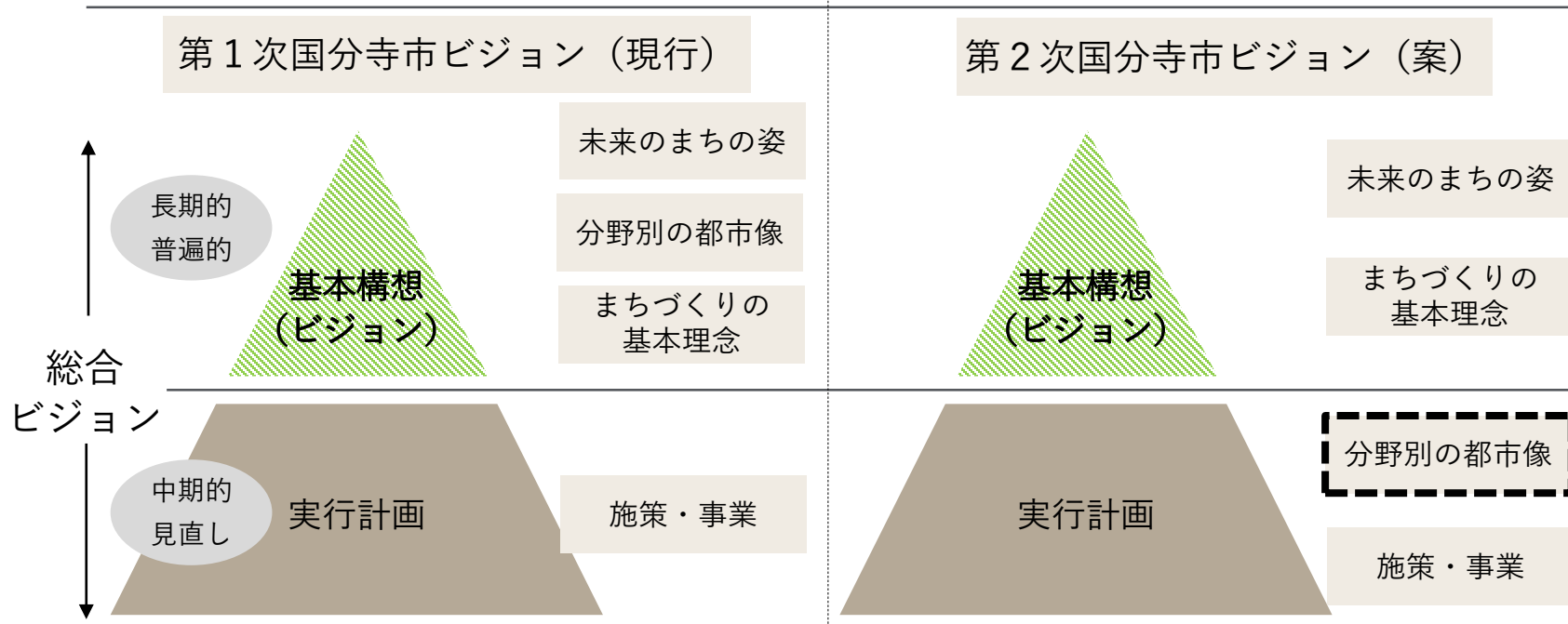


## 国分寺市ビジョン実行計画（基本計画＋実施計画）



国分寺市ビジョン	他団体の事例
未来のまちの姿	本市と同様に、目指すべきまちの姿を一文で描いている自治体が多い。複数描いている自治体もある。
分野別の都市像	多くの自治体で記載があり、本市と同様に分野と併せて分かりやすく記載している自治体もある。分野別の都市像を基本構想に位置付けない自治体もある。
まちづくりの基本理念	本市と同様に、複数の理念を設定している自治体が多い（協働，市民参加，環境，持続可能性，市民生活，財政など）。基本理念としては明確に定めず，将来像のみ（「未来のまちの姿」と「基本理念」を分けていない）を示している自治体もある。

# 基本構想（ビジョン）の構成案



## 【抽出した課題】

- ✓ 基本構想内の要素が多いため、未来のまちの姿の実現による具体的な効果が分かりづらい。
- ✓ まちづくりの基本理念と実行計画の施策・事業との関係性が見えづらい（実行計画に目に見える形で記載されているのは「ともに進めるために」のみ。）。
- ✓ 記載の重複を含め、全体的に文書量が多く、硬い（難しい）印象を与えてしまう。

## 【見直し効果】

- ✓ これまで以上に社会状況が急速に変化している中で、その時々の変化や市民ニーズを踏まえた分野別の都市像へ見直すことができ、より時代に即した施策の展開が可能となる。
- ✓ 分野別の都市像と施策との関連性をより明確に示すことができる。
- ✓ 記載の重複を減らすことで、基本構想（ビジョン）が分かりやすくなる。



# (参考事例) 静岡市の基本構想 (新案に類似)

- 「まちづくりの目標」 (未来のまちの姿) を基本構想に位置付け、目標を実現するため分野ごとの取組を基本計画で設定する。

[ 基本構想 ]

静岡市は、「世界に輝く静岡」の実現を目指します。

静岡市は、静岡県のほぼ中央に位置し、北には標高3,000メートル級の南アルプスの壮大な山々が連なり、南には水深2,500メートルの日本一深い駿河湾が広がる、美しい自然環境を有しています。一年を通じて温暖な気候と豊富な日照時間がもたらす暮らしやすい生活環境のもと、長い歴史の中で独自の文化が培われてきました。

この地に暮らし、人々の思いは、太古から明々と受け継がれ、豊田源流などで創作文化が発展した浮世時代、今川文化が花開いた室町・戦国時代を経て、江戸時代の初期には、駿河城を築城とする徳川家康公による大府政令が行われました。さらに、東西交通の要衝である東海道二林六宿は、多くの旅人が行き交い、今も当時の面影を残しています。こうした歴史と地質的な利便から、多様な人々が交流し、多様な産業が育まれてきました。

そして今日、域下町として栄えてきた静岡核心、国領拠点開発の清水圏を擁する静岡の清水圏、合併により市境が取り払われた新都市である草薙・東静岡副都心の3圏がとなり、高度な都市機能を備えた静岡圏中央地域の中枢都市として発展を遂げています。このように静岡市は、生活に豊かな楽しみを与える中山間地域をはじめとした自然環境、特産性の高い都心部、さらには固有の歴史、文化、産業など、世界中の魅力ある都市にも決して引けを取らない、数多くの貴重な地域資源を有しています。

これらの強みを活かして、人口や産業が過度に集中し、過度の混雑がもたらす大都市病ではなく、一定の経済力を有しながら、経済、社会、環境が調和した、世界の中で存在感を示す都市を目指してまいります。「世界に輝く静岡」の実現を目指ることにします。

**まちづくりの目標**  
「世界に輝く静岡」の実現

まちづくりの目標  
(未来のまちの姿)

基本構想

「世界に輝く静岡」とは  
「世界に輝く静岡」とは、次の2つの要件を兼ね備えたまちと定義します。

**市民(ひと)が輝く**  
静岡市に暮らす市民一人ひとりが、輝いて、自分らしい人生を謳歌できるまちであること

**都市(まち)が輝く**  
静岡市が擁する地域資源を磨き、輝かせ、世界から注目され、人々が集まるまちであること

「輝くまち」と聞いて、どのようなまちの姿を思い浮かべるでしょうか？  
市民が毎日爽やかに暮らし、やりがいや充実感を持って働いている、街中がいつも多くの人で賑わっている、休日に楽しめるスポットがある……。人それぞれのイメージがあると思います。

ただ、いずれの場合でも、そのまちで暮らす市民一人ひとりが、自分らしく輝いて、人生を謳歌している、その姿は共通しているのではないのでしょうか。

個々の市民が未来に希望を持ち、いつまでも暮らし続けたい、まちづくりに関わっていききたいと感じる、それが、いつの時代も世界に輝くまちの第一歩なのです。

「世界に輝く」、そのためには市民(ひと)が輝いている」だけでよいのでしょうか？  
個々の市民が輝いていたとしても、そのまちが多様な人々を惹きつける魅力がなければ、やがて活気や賑わいは失われてしまうでしょう。

そしてまちの魅力とは、他の都市の真似をするのではなく、もともと持ち合わせている固有の地域資源をより磨き上げ、輝かせることで、向上していくのではないのでしょうか。

都市全体が常に活力にあふれ、住む人が誇りを持ち、訪れる人や関わる人が愛着を感じる、それが、世界から注目され、誰もが集まる輝くまちなのです。

まちづくりの基本理念  
に近い要素

まちづくりの目標の実現に向けて  
まちづくりの目標を実現するために、この基本構想に則した基本計画を策定し、政策・施策を円滑かつ着実に推進していきます。

基本計画

基本計画 分野別の政策【①健康・福祉分野】

①健康・福祉 分野

分野別の目指す姿  
(分野別の都市像)

2030年の  
目指す姿

誰もが健やかに生きがいをもって、自分らしく地域で  
共に生きることのできるまちを実現します

本市は、充実した生活環境や地域活動、元気に活動する、小園地における多職種による在宅医療・介護連携を進め、健康長寿・生涯活躍のまちづくりを進めてきました。

一方、人口減少や少子高齢化等を背景とした要介護者、認知症高齢者、中高高齢者、孤立者の増加、「8050」「ダブルケア」「ごみ屋敷」「働き過ぎ」等の複合問題世帯の増加、民生委員等の高齢者不足、医療・介護の担い手不足等の懸念が顕在化しています。

また、生活困窮者、就職氷河期世代への、障がい者・若年非正規のボーダーライン、発達障害者等の就労困難者への対応に加え、生活困窮者の衣食住確保、がん・生活習慣病や自殺、依存症等に対する「からだ」と「こころ」の健康づくり、新興・再興感染症や生活・食生活由来の健康危機管理等の課題への対応も、より重要となっています。

そこで、市民が安心して健やかに、生涯を通じて生きがいを持ち、自立した生活を営むとともに、人と人とのつながりの大切さを認識し、身近な地域で互いに心を遣いながら、支え合い共生することができるまちの実現を目指します。

分野を代表する指標

健康寿命 74.4 → 77.2 75.0 → 78.0	若い世代が活躍しやすい まちづくりの推進率 59.6% → 65.0%	障がいのある人への 就業支援率 21.0 → 23.0 30.0 → 30.0	高齢期(単年制30~64歳) 人口10万人あたり死亡数 170人 → 150人
------------------------------------	---	--	---